

- 学識経験者、市町村及び都道府県の職員等から構成される検証委員会を設置し、**令和4年度に向けた評価指標の見直し等**を以下の視点で検証
 - 市町村等の様々な**取組達成状況を評価できる指標**となっているか
 - 評価指標による自己評価や財政的インセンティブが自治体で効果的に活用され、**PDCA サイクルによる改善**が期待できるか

○ 達成状況を把握するための評価指標の設定

検証結果 項目の変更、曖昧な表現等で、経年的な達成状況の把握が困難

- ・ 評価目的等を精査したうえで、曖昧な表現等を改め文言整理を行う
- ・ 政策的な観点を含めて評価指標を吟味し、取組過程の進捗や取組の深度、幅を測れるように階層化を図る
- ・ 取組状況の適切な評価、更なる取組の推進に向けた配点の検討
- ・ 第8期介護保険事業計画の基本指針との関係性を明確化

○ 地域の実情に対する配慮

検証結果 評価結果には人口規模による差があり、小規模市町村で顕著

- ・ 評価目的に沿って、保険者が自地域に必要な取組を行っている場合に評価できるようする等、一定の配慮を行う

○ 自己評価の実効性・該当性の担保

検証結果 自己評価者によって判断基準に差がみられ、第三者が客観性を担保する体制構築も実態を踏まえれば困難

- ・ 評価方法の平準化に向けたマニュアル策定等

【保険者機能の評価する意義】

- ◆ 各自治体は、自らの資源の多寡やその有用性を分析し、自分たちの地域に即した地域包括ケアシステムを独自に検討し、構築することが必要
- ◆ 市町村は限られた財源や人的・物的資源の中で、優先順位をもって取組を推進していく、地域マネジメント能力が求められる
- ◆ 自立支援・重度化防止等の取組など、地域包括ケアシステム構築に向けて適切な介護サービスが提供できているか、地域差縮減の観点による評価も含めて、地域マネジメントによる地域包括ケアシステムの深化が着実に進むよう、保険者として果たすべき機能の評価する仕組みが重要

○ 市町村支援の進捗把握と、市町村評価との連動による質の向上

検証結果 現行指標は、市町村支援の成果を測るには不十分

- ・ 市町村支援の実効性を高めるために、都道府県の自己評価を通じて、市町村の取組結果が向上するような仕組みを検討
- ・ 都道府県と市町村がともにより良い方向に進めていくための目標設定と共有が重要。双方の評価指標との連動性を持たせるなどの検討

○ 保険者機能におけるアウトカム指標の設定

検証結果 現状ではアウトカム項目との相関はみられない
(未整理の現行指標、データ取得の限界等が検証精度に影響)

- ・ アウトカムの設定及び必要なデータ収集を行い、アウトカムに直結する指標設定が必要
- ・ まずは、評価指標の精緻化を図る
- ・ 両交付金それぞれの目標を整理し、その目標に資するプロセスやストラクチャーを明らかにし、評価指標に反映することが必要

○ 交付金の活用方策

検証結果 新規・拡充事業への交付金活用の低さは、交付金の活用事例の横展開が十分でないことが一因

- ・ 一般公表等で活用事例を広く展開

評価指標等の見直しの具体例 (達成状況を把握するための評価指標の設定)

達成状況を把握するための評価指標の設定

検証結果 項目の変更、曖昧な表現等で、経年的な達成状況の把握が困難

⇒ 文言整理と階層化を図る

- 評価目的・意義を精査したうえで、曖昧な表現等について文言整理
- 取組過程の進捗や取組の深度・幅を測れるように階層化を図った (原則、市町村は4階層化、都道府県は5階層化)

■ 階層化による回答率イメージ

選択肢	回答率			
選択肢1	■	■	■	■
選択肢2	■	■	■	■
選択肢3	■	■	■	■
選択肢4	■	■	■	■

取組が進んでいる場合は点数が高く、
そうでない場合は点数が低いという結果に結びつきやすい

- 取組状況の適切な評価、更なる取組の推進に向けて、実施率が極端に高い/低い結果とならないように、見直しを図るとともに、配点方法を検討

⇒ 事業計画期間 (3年間) は、極力、同一指標とする

- 基本指針との関係性を明確化

■ 修正イメージ

—	令和3年度指標	配点	—
—	自立支援、重度化防止等に資する施策についての目標及び目標を実現するための重点施策について、実績を把握して進捗管理の上、目標が未達成であった場合の具体的な改善策や目標の見直し等の取組を実施しているか。	40点	—
—	当該地域の介護保険事業の特徴を他の地域と比較して分析の上、介護給付の適正化の方策を策定し、実施しているか。 ア 方策を策定していない。 イ 方策を策定し実施している	ア マけ入5点 イ 40点 いずれかを選択	—

文言整理・階層化

基本指針	令和4年度指標	配点	評価目的・内容
基本二4 (一)	自立支援、重度化防止等に資する施策について、目標が未達成であった場合に具体的な改善策や目標の見直し等の取組を実施しているか。 <u>ア 年に1回以上、実績を踏まえた進捗管理を行っている</u> <u>イ 年に1回以上、評価を行っている</u> <u>ウ 改善・見直し等の取組を実施している</u> <u>エ 進捗管理の結果をホームページ等で公開している</u>	ア～エ各5点 複数選択可 (最大20点) 【回答条件】 ア→イ→ウ→エの順に選択可	●過程 (PDCAサイクル) を評価 (Doは別項目) ・自立支援、重度化防止等の目標及び施策の進捗管理 ・目標未達成時の改善プロセスを有している
基本二4 (一)	当該地域の介護保険事業の特徴を他の地域と比較して分析の上、介護給付の適正化の方策を策定し、実施しているか。 <u>ア 当該地域の介護保険事業の特徴を他の地域と比較・分析し、方策を策定している</u> <u>イ 策定した方策に沿って実施している</u> <u>ウ 方策の改善・見直し等を行うプロセスがある</u> <u>エ 方策の改善・見直し等の取組結果を公表する機会がある</u>	ア～エ各5点 複数選択可 (最大20点) 【回答条件】 ア→イ→ウ→エの順に選択可	●過程 (PDCAサイクル) を評価 ・介護給付の適正化の方策の策定・実施 ・改善・見直しとその結果の公表 (HP等での公開を想定)

評価指標等の見直しの具体例（地域の実情に対する配慮など）

地域の実情に対する配慮

検証結果 評価結果には人口規模による差があり、小規模市町村で顕著

⇒ 評価目的に沿って地域に必要な取組を行っている場合、
評価されるような指標内容へと一定見直し

⇒ 保険者規模別の評価結果を公表

■修正イメージ

—	令和3年度指標	配点	—
—	④ 介護に関する入門的研修を実施しているか。	10点	—
—	⑤ ボランティアポイントの取組を実施しているか。	10点	—
—	⑥ 介護施設と就労希望者とのマッチングに取り組んでいるか。	10点	—
—	⑦ 介護助手等の元気高齢者の就労的活動の促進に取り組んでいるか。	10点	—

取組メニューの多さを評価するのではなく、「高齢者就労・活躍促進」に向けた、PDCAサイクルがまわっているかを評価

基本指針	令和4年度指標	配点	評価目的・内容
任意 三 四	多様な人材・介護助手等の元気高齢者の活躍に向けた取組を実施しているか。 A 現状分析・課題整理をしている I 関係団体の意見を聞いている U 多様な人材・介護助手等の元気高齢者の活躍に向けた取組を実施している E 改善・見直し等の取組の実施	ア～エ各5点 複数選択可（最大20点） 【回答条件】ア→イ→ウ→エの順に選択可	●過程（PDCAサイクル）を評価 ・高齢者就労・活躍促進に向けた課程

自己評価の実効性・該当性の担保

検証結果 自己評価者によって判断基準に差がみられ、第三者が客観性を担保する体制構築も実態を踏まえれば困難

⇒ 自己評価のばらつきをおさえるために、評価目的やQ&A集を整理

⇒ 評価方法の平準化に向けて、都道府県による取組を国において収集し、情報提供を行う（別の老健事業で予定）

交付金の活用方策

検証結果 新規・拡充事業への交付金活用の低さは、交付金の活用事例の横展開が十分でないことが一因

⇒ 活用事例を収集し、HPで一般公表

■厚労省HP https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_17527.html

保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金の集計結果について

1. 閲覧・活用に応じた留意点

保険者機能強化推進交付金等の集計結果については、事業者や住民を含めた関係者の参考になるよう、更なる「見える化」を推進するため、当ページへの掲載を開始いたしました。
なお、集計結果（市町村別）の閲覧・活用に応じた、以下の点についてご留意ください。

- ・市町村ごとの人口規模、地理的条件、地域資源、職員体制、取組の優先度など取組の前提条件にかかわらず、全国一律の評価指標を用いていること
- ・評価指標に掲げている取組以外にも、市町村独自に地域の実情を踏まえながら工夫した取組を行っている場合があること
- ・評価指標の中には、その該当性の判断を市町村ごとの自己評価によって行われているものもあること

2. 保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金の集計結果（都道府県分）

平成30年度～令和3年度分

[令和3年度都道府県保険者機能強化推進交付金等の集計結果 \[pptx:3.72KB\]](#)

[令和2年度都道府県保険者機能強化推進交付金等の集計結果 \[pptx:3.70KB\]](#)

[令和元年度都道府県保険者機能強化推進交付金の集計結果 \[pptx:3.857KB\]](#)

[平成30年度都道府県保険者機能強化推進交付金の集計結果 \[pptx:3.007KB\]](#)

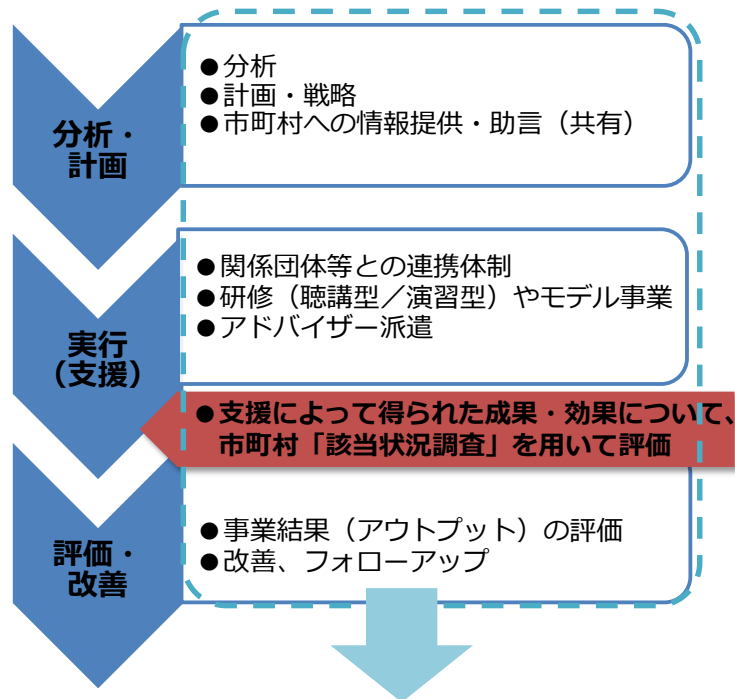
市町村支援の進捗把握と、市町村評価との連動による質の向上

検証結果 現行指標は、市町村支援の成果を測るには不十分

⇒ 市町村支援の進捗を把握するため、都道府県指標を「分析・計画」「実行（支援）」「評価・改善」の3段階で再整理

⇒ 都道府県と市町村がともにより良い方向に進むための「目標設定と共有」が重要との前提にたち、一部指標において双方の評価指標との連動性を持たせた

■市町村支援の共通的な手順（3段階）



「分析・計画」「実行（支援）」「評価・改善」の3段階を基に、各指標は5階層（ア～オ）で達成状況を評価

■修正イメージ

令和3年度指標	
	介護給付の適正化に関し、市町村に対する必要な支援を行っているか。
ア	「医療情報との突合」「縦覧点検」の実施を支援している（国保連への委託に係る支援を含む）
イ	管内市町村の「医療情報との突合」「縦覧点検」の達成状況はどのようになっているか
ウ	国保連の適正化システムの操作研修や実地における支援を実施している
エ	ケアプラン点検に関する研修や実地における支援を実施している
オ	保険者の効果的な取組事例を紹介する説明会等を実施している
カ	介護給付適正化ブロック研修会について開催又は参加している（a開催、b参加）
キ	管内市町村の評価指標Ⅲ(1)②の得点の達成状況はどのようになっているか

「分析・計画」「実行」「評価・改善」の段階を整理

令和4年度指標	
	介護給付の適正化に関し、市町村に対する必要な支援を行っているか。
①分析・計画：分析	ア 各市町村の実施内容、管内の利用者やサービスの特徴等の地域分析を実施している
②分析・計画：計画・戦略	イ 地域分析に基づき、市町村別に目標と取組内容の設定を行っている
③実行：市町村への支援	ウ イに基づき、市町村に対して必要な支援を実施している
④評価・改善：市町村結果による評価（市町村評価から算出）	エ 管内市町村の「医療情報との突合」、「縦覧点検」、「ケアプラン点検」の達成状況
⑤評価・改善：フォローアップ	オ 評価結果を基に、市町村に対して定期的な（1回/年程度）フォローアップを実施している